

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	落合二中言語モデルによる、教員間での共通した話し合い活動の実施（共有化）	中間評価		最終評価
		①タブレット端末の教員・生徒双方向授業内活用と ICT 機器の活用によるデジタル教科書を用いた授業展開（視覚化） ②授業、家庭学習、放課後学習教室での学習課題提供におけるタブレット端末利用推進（個別の配慮）			

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、全ての項目において全国平均を上回るなど、おおむね良好な状況であった。特に読解については平均値を大きく上回っている。一方で、漢字や文法、古文など「言語事項」や、作文などの表現に関する項目については、読解に比べ多少苦手が見られた。</p> <p>学 生徒の観察から、授業中の取り組みについてはおおむね良好で、特に「読むこと」の活動については前向きな生徒が多い。一方で、習慣的に学習を行っている生徒が少なく、知識を身につける活動が苦手な生徒が多い。また書く活動、話す活動については活動の機会も少ないためか、苦手意識をもつ生徒も少ない。</p>	<p>調 漢字の読み書き・文法・古文に関する知識など、「言語事項」が定着していない生徒が多い。</p> <p>調 「書くこと」「話すこと」に関する項目など、自己を表現することに苦手をもつ生徒が多い。</p> <p>学 「話すこと・聞くこと」「書くこと」に苦手意識をもたない生徒であっても、技術としてそれらの項目を身につけていないため、自分の記述や発言の内容を客観的に評価し、推敲できない生徒が多い。</p>	<p>調 言語事項における知識を指導する際は、授業中や休業明けに小テストや漢字テストを行ったり、宿題を日常的に出したりする。また、生徒用端末を活用し、日常的に課題を出すことで、生徒に家庭学習を定着させていく。</p> <p>調 対話的な授業形態を増やすことにより、生徒の表現の機会を多く設ける工夫をしていくとともに、構成メモの段階での評価も行うなどスモールステップを多く設定し成就感をもたせる工夫をする。</p> <p>学 「書くこと」「話すこと」に関する力については、「知識・技能」と「思考・判断・表現」との内容の差を授業にて明らかにし、特に知識・技能については、それぞれの技術に名前をつけるなどして意識して習得させるようにする。</p>		
社会	<p>調 新宿区学力定着度調査では、第2学年は全ての項目において全国・区平均を上回るなどおおむね良好な状況であった。第1学年は、「世界の地域構成」の項目について苦手が見られた。</p> <p>学 授業には意欲的に臨んでおり、様々な社会的事象に興味をもちながら学習を進める生徒が多い。一方で、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多く、学習内容の定着と、既習事項の活用に課題がある。</p>	<p>調 基礎的な知識を定着させることに課題がある生徒が多い。</p> <p>学 地図や統計資料などを活用して、読み取れる内容を表現することを苦手とする生徒が多い。</p> <p>学 知識を定着させるとともに、既習事項を活用させて思考することに課題がある生徒が多い。</p>	<p>調 基礎的な知識の定着と活用のため、語句の意味や資料の活用の仕方を確認する機会を積極的につくり、単元テスト等を実施していく。</p> <p>学 タブレット端末を活用し、家庭学習の習慣化を図る。また、デジタル教材等を利用しながら地図や文献、統計などの資料を積極的に示し、資料から読み取れる情報を活用して思考する機会をさらに増やしていく。</p>		
数学	<p>調 新宿区学力定着度調査では、第1学年、第2学年とも全ての項目において、おおむね良好であった。特に第2学年は「活用」で前年度から大きく伸びている。</p> <p>学 授業には意欲をもって取り組み、答えに至るまでの途中式や自分の考えを丁寧に書く習慣が身に付いている生徒が多い。一方で、基礎的な技能や既習事項の定着が不十分な生徒もいる。</p>	<p>調 第1学年は、図と式を関連付けて読み取り、式が表している数量がわかる問題が苦手である。既習事項を活用して、発展的な学習内容に対する思考力を身に付けさせることが課題である。</p> <p>調 一次関数に対して苦手意識をもつ生徒が多い。ICT機器を用いて、生徒が関数に対して理解を深められる授業方法を検討していくことが必要である。</p> <p>学 基礎的な技能や既習事項の定着が不十分な生徒について、家庭学習で学習内容を復習する習慣が身に付いていないことに課題が見られる。</p>	<p>調 特に課題のある領域「比例・反比例」「1次数」は、演習を多く取り入れて計算力を確実に定着させるとともに、多様な課題を取り上げて既習事項の確認を行い、多くの解決方法を示す。また、「図形の性質」に関しては、ICT機器を積極的に取り入れ、視覚的にイメージしやすい授業を行う。</p> <p>調 生徒が文章題に対して数学的な表現を用いて説明し合い、解決できるように話し合い活動を充実させる。</p> <p>学 少人数授業での教え合いや学び合い学習を出来る範囲で取り入れて、数学に対する関心・意欲を高め、思考力を深める場面を多く取り入れる。単元テストや小テストで確認しながら、苦手とする内容のやり直しを徹底して行わせる。</p> <p>学 家庭学習において、デジタルドリルの積極的な活用を呼び掛けていく。</p>		

理科	<p>調 新宿区学力到達度調査では、第1学年は全国平均を上回ったが、第2学年は「自然事象についての知識・理解」の正答率が僅かに全国平均を下回った。</p> <p>学 どの学年とも、落ち着いた授業態度で学習に臨んでいる。また、授業ノートなども丁寧に取り組んでいる。一方、理科の内容に積極的に取り組む生徒と関心が低い生徒の間に差が出ている。また感染症対策の観点から観察・実験が思うように実施できなかった点から、理科への興味・関心が低くなっているように思える。</p>	<p>調 観点別の「自然事象についての知識・理解」に課題が見られる。</p> <p>また、実験操作などの正しい知識を身につけるところにも課題が見られる。</p> <p>学 学習した内容を活用して演習問題を解くというところや、知識を定着させるところに、課題がある。</p>	<p>調 前年度に引き続き、観察・実験前に、目的をしっかりと説明し、結果に対しての予想を立てて行う。また、実験手順を確認する時間をとることで、実験操作を正しく理解することができるようにする。</p> <p>学 授業での問題演習や小テストなどを行っていくが、家庭学習で行う項目を具体的に示し、期限を決めて宿題やレポートとして提出させる。またデジタルドリルによる家庭学習を定着させることで、知識の定着を図っていく。</p>		
英語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、どの観点も全国平均を上回っていた。ただ、第2学年は区平均を下回る結果となった。</p> <p>学 即興で英会話する指導を続けて行ってきたことで、コミュニケーションへの意欲が高まり、少しずつ力をつけてきている。コミュニケーション活動は今後も続けていく。</p>	<p>調 表現の能力に課題が見られた。英作文は表現しようとする意欲は高いものの、正確性に欠ける部分がある。</p> <p>学 新宿区学力定着度調査と同様、文章表現では正確性において課題が見られた。</p> <p>学 英語はできないと決めつけてしまっている生徒も少数だが存在する。英単語や英文を覚える、書くことに抵抗がある生徒もいる。</p>	<p>調 前年度に引き続き、英作文の課題に多く取り組ませ、よくあるミスなどを共有することで、正確に表現できる力を身に付けさせる指導を行っていく。</p> <p>学 書く力を高めていく指導を行っていくなどライティングに力を入れて授業を行う。また、基本的な表現のチェックテストを行い、基礎基本の定着を図っていく。</p> <p>学 成功体験を積ませるように課題のレベルを考え、簡単なものから授業に取り入れ、スモールステップで課題を達成できるようにする。デジタルドリルを用いた家庭学習の習慣化を図り、語句・文法の基礎基本の定着につなげる。</p>		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。